

社会福祉法人 吉備の里 平成28年度 事業報告書

利用者サービスの充実と向上を基本とし、平成29年度から平成33年までの5カ年を対象とする「第3期中期計画」の策定と併せ、社会福祉法人制度改革への準備並びに暮らしの安全・安心の確保強化に取り組んだ。

(第一種社会福祉事業)

○障害者支援施設(吉備の里なでしこ)

(第二種社会福祉事業)

○障害福祉サービス事業

生活介護事業(吉備の里たんぼぼ)

共同生活援助事業(吉備の里地域生活ホーム)

自立訓練事業(吉備の里なでしこ、吉備の里つばき寮)

就労移行支援事業(吉備の里なでしこ)

就労継続支援事業(吉備の里チャレンジ、吉備の里ひなぎく、吉備の里希望)

○障害児相談支援事業(吉備の里相談支援センター)

○特定相談支援事業(吉備の里相談支援センター)

○福祉ホーム事業(吉備の里希望)

(公益事業)

○日中一時支援事業(吉備の里地域活動支援センター)

I 理事会・評議員会の開催

●監事監査(平成28年5月16日)

●評議員会・理事会(平成28年5月25日)

平成27年度事業報告・決算について

規程の整備について(経理規程関係)

●評議員会・理事会(平成28年11月29日)

積立資産の取り崩し及び勘定科目の修正について

平成28年度1次補正予算について(設備整備関係)

定款の変更について

規程の整備について(役員報酬規程・運営規程関係)

評議員選任・解任委員の選任について

●理事会(平成29年2月6日)

新評議員候補者の選任について

●評議員選任・解任委員会(平成29年2月22日)

新評議員候補者の選任について

●評議員会・理事会(平成29年3月24日)

平成28年度施設整備・設備整備について

繰入金戻し入れ並びに積立金等の修正について

平成28年度2次補正予算について

平成29年度事業計画及び予算について

定款細則の整備について

第3期中期計画について

規程の整備について(就業規則、運営規程関係)

事業所所長人事について

II 重要事項課題への取り組み

1. 事業運営体制の強化

地域生活ホームの夜間支援体制を一部「夜勤(ヴェスタ)」へと改めたほか、地域生活ホームとつばき寮の2事業所に看護職員(正看・准看)を配置するなど、利用者・職員の健康面の支援体制を強化した。また、新たに「虐待防止委員会」を法人内に設置し、チェックシートによる現状点検、施行された障害者差別解消法の理解等に取り組んだ。(あいサポート団体認定)

2. 地域生活を支えるサービス基盤の整備

利用者の地域生活移行を促進するため、共同生活住居1カ所を整備するとともに、地域生活ホーム管理棟の増築工事に着手した(事務室、相談室)。また、これまで自動火災警報設備が未整備となっていたホームについて、補助金を活用し設置したほか、防犯カメラやAED(自動対外式除細動器)についても増設整備を行った。

3. 人材の確保と育成

活力ある法人づくりに向けて、正規職1名を採用するとともに、看護職員(看護師)2名、グループホーム事業の拡充に伴う必要な職員、退職に伴う補充職員を適切に確保した。また、次年度以降の人材確保の募集方法等について見直しの検討を行った。

4. 適正で安定した法人経営

安全・安心なサービス提供の充実に向け、各種のセキュリティ対策、防犯講習会、将来に備えた成年後見制度勉強会他を家族会と合同で開催した。また、「働きやすい職場づくり」を目指し、ストレスチェックの検証、就業規則の見直し、賃金等の待遇改善に取り組んだ。行政指導等については、法人、なでしこ、ひなぎく、チャレンジが実地指導を受け、指摘事項について、速やかに改善に着手した。

また、昨年度同様、研修会等を通じ利用者の事故防止に取り組んだが、7月に多数の利用者・職員が負傷する車輦自損事故が発生した。各部署における現状の運転業務マニュアルを再点検するとともに、再発防止に向けた検証と意識改革に取り組んだ。

5. その他

法人ホームページを6年ぶりにリニューアルするとともに、昨年度から取り組むコスト対策を推進した。(LED照明、電気調達先の見直し)

また、送迎支援業務に使用する車輦について、民間助成を活用した更新整備を行った。

吉備の里たんぼぼ (共同募金会)	2,880千円 (1,000千円)	送迎車1台 (10人乗り)
---------------------	----------------------	------------------

平成 28 年度事業報告書

吉備の里相談支援センター・吉備の里地域活動支援センター

吉備の里相談支援センター

吉備中央町から障害児者相談支援事業を受託。障害者（児）の地域での自立した生活を支えるため、相談関係機関と連携を図りながら適切な情報提供・支援を行った。

1. 相談支援センターの活動状況

□相談支援事業

電話相談	177 件
家庭訪問	41 件
関係機関訪問	32 件
同行支援	6 件
来所訪問	13 件
個別支援会議	355 件

・必要に応じ個別支援会議を開催し、関係者との連携や状況によって専門的な介入も図った。

・「生活困窮のための移行支援」、「在宅の精神障害者へ支援」、「障害者虐待の疑いへの対応」、「金銭搾取、不当な名義の使用への介入」等、様々なケースへの相談、介入を適宜行った。

2. 計画相談の実施

□特定相談支援（障害者）

サービス等利用計画	83 件
モニタリング	193 件

□障害児相談支援

サービス等利用計画	21 件
モニタリング	16 件

・平成 24 年 4 月から計画相談を開始し 5 年目を迎えた。定期的にモニタリングを迎えるケースも多く、件数も 190 件を超えている状況。また、65 歳以上の障害者については、包括支援センターとの連携を図り、本人の希望と将来の生活を勘案したうえで、サービス利用への助言を行った（現行制度と介護保険制度との選択）

・新規相談者に対しては、「基本相談」を基盤にしながらか十分な聞き取りや状況把握に努め、計画作成を行うことができた。

・今後の課題としては、「地域拠点事業」の推進に向け、具体的な方向性を（多機能型あるいは面的整備）、行政、地域自立支援協議会関係者と協議し、緊急時の対応、相談支援体制、人材育成のあり方を検討していく。

3. 障害者等地域自立支援協議会の運営

①運営委員会（6 回／年）

②権利擁護先

進地視察

平成 28 年 9 月 9 日（金）

岡山県聴覚障害者センター

③ふるまいボランティア

平成 28 年 10 月 12 日（日）

吉備高原車いすふれあいロードレース大会

④部会活動

〔 就労支援部会・教育保育部会
生活支援部会・精神保健部会 〕

⑤福祉フォーラムの開催

□みんなおいでえ～福祉まつり in 吉備中央町

平成 28 年 10 月 29 日	<p>第一部 基調講演 横林史典氏(高梁市社会福祉協議会地域福祉課主任) テーマ「高梁市社協が進める地区社協支援について」</p> <p>第二部 シンポジウム テーマ『「伝え・つながる」支援を考える～報道機関と支援機関が一緒にできること～』 ▼山陽新聞社 論説委員 中浜 隆宏 氏 ▼吉備の里相談支援センター 所長 山崎 弘一</p>
----------------------	---

⑥人権啓発の一環として、11 月 11、12 日と、加賀中学校 2 年生を対象に「チャレンジド交流授業 2 DAYS」を実施。支援関係者の講義や町内在住の元プロレスラー片山明氏（重度身体障害者）の講話を通じて、「障害理解」についての啓発を図った。

⑦「おへそミーティング」と題し、町長との懇談会を実施。行政の長を交え、町の障害福祉事業についての意見、情報交換を図ることができた。

⑧平成 28 年 3 月には、昨年同様、専門部会の活動の活性化を図るため、第 3 回の 2 市 1 町（高梁市、新見市、吉備中央町）による専門部会情報交換会を実施。今年度は、デザインマネジメントセミナーを開催し、生産活動に欠かせないデザインマネジメントについて学んだ。

吉備の里地域活動支援センター

1. 日中一時支援事業「あおば」の活動状況

吉備中央町から運営の委託（平成 21 年度開始）を受け、障害児に日中活動の場の提供や生活支援を行い、家族介護者の一時的な休息や育児の負担軽減を図った。

□登録者数 12 名

広汎性発達障害	10 名
自閉症	1 名
精神遅滞	1 名

□実施日

日中一時支援	47 日
放課後支援	0 日

□利用状況

日中一時支援	3.1 人/日 149 人/年
放課後支援	0 人/日

・有資格者（教職、保育士等）を常時 2 名配置。子ども達が楽しく意欲的に過ごすことができるよう働きかけることができた。高学年の児童については、自宅で過ごせたり、友達と遊べるようになってきたおり、利用日数が減少傾向にある。

□活動内容

おやつ作り、調理、体育遊び、工作遊び、プール遊び、散歩、芋掘り、栗拾い、クリスマス会、社会見学（ワークショップへの参加、図書館、人形劇）

2. 吉備中央町発達支援事業

発達支援教室「ぼけっと」活動状況

吉備中央町から運営の委託（平成 26 年度開始）を受け、発達に支援が必要な児童及び保護者に対し、発達を促すための療育や保護者が抱える療育上の不安軽減のための助言や支援を行った。

ぼけっとでは、「言葉の学習」「指先の訓練」「社会生活スキルの獲得」を中心とした療育プログラムを設定。対象となる児童、一人ひとりの発達の特性に添った課題を臨床心理士と保育士が考え、療育にあたった。

開所日は、火曜日、金曜日の週 2 回。28 年度は児童 11 人の登録があり、楽しく学びながら、子どもの興味や関心のある題材に教材をアレンジすることで、療育への意欲を高めた。

【年間実施日】

平成 28 年 4 月 ～29 年 3 月	94 日
--------------------------	------

【年間利用児童数（人）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
19	22	19	22	22	22

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
20	31	25	31	34	37	304

【事業効果】

□個別課題の成果

・前年度の「ことばの学習」と「指先の訓練」の課題に加え、本年度より「衝動コントロール」、「視覚認知の訓練」、「文字や数の学習」等を行った。個別課題への働きかけを通じて、学ぶために必要な基本姿勢を身につけ必要なスキルの向上に繋がった。

□ぼけっと卒業生へのアフターフォロー

・新一年生の会として、2 ヶ月に 1 回のペースで茶話会を行った。小学校での様子を話したり、卒業生との触れ合いを深める交流の機会となった。

□構造化支援の成果

・教室の構造化によって、子ども達がスムーズに行動することができたといえる。今年度は、子どもの特性に合わせて、個別での配慮を行った。

（多動傾向の強い児童⇒視覚刺激を減らす）

□小集団療育の成果

・他児を意識することで、社会性の広がりや肯定的な影響を及ぼすことができた。本年度より、全身運動を積極的に取り入れ、体を動かすことで、ストレスの発散や情緒の安定にも繋がった。

□保護者支援の成果

・子どものがんばっている姿を、保護者とスタッフが一緒に共有し、子どもの成長を保護者と一緒に確認することができた。

・保護者自身が、子どもの特性を理解し、適切な関わり方を習得することにも繋がってきた。

□保育園・幼稚園との連携による成果

・在園施設をすべて訪問し、モニタリングやケース会議等を行うことができた。療育では見られない子どもたちの様子を知り、新たな課題も見つけることができた。

（双葉保育園・大和保育園・豊野保育園・吉川保育園・円城幼稚園・御北幼稚園）

吉備の里希望(福祉ホーム事業)
平成28年度 事業報告書

1. 概 要

平成24年4月より、定員40名の福祉ホーム事業(地域生活支援事業)として運営を開始して5年目を迎えた。設備面の、老朽化が目立ってきたが安全で安心した生活が出来るよう支援を行った。

【事業推進体制】

平成28年4月は、5名の管理人体制であったが、6月より2名増員となった。

利用定員 40名		
体制	管理者(兼務)	1名
	管理人	7名

2. 事業目標への取り組み

(1) 快適な暮らしの場の提供

福祉ホーム周辺の環境整備や害虫駆除、建具等の不具合の修理等を行った。また、利用者からの要望により居室の清掃等も行い快適な生活の確保を図った。

実施月	内 容
29年2~3月	屋根の防水工事実施。
29年3月	洗濯機入れ替え 男子2台。女子2台

(2) 利用の促進

市町村、関係機関等へ利用促進のPRを行った結果、2人の新規利用者を受け入れた。

契約月	出身地域	活動先
28年5月	高知県宿毛市	一般企業
28年10月	高梁市	B型事業所

3. 利用者の状況

定員40名に対して月平均契約者数は33.3人であった。利用者の年齢は、男性の平均年齢は、44.2歳、女性の平均年齢は31.8歳で全体の平均年齢は40.6歳であった。(最高67歳)

(1) 契約の状況 (人)

年 月	契約者数	男性	女性
4月	33	25	8
5月	34	25	9
6月	34	25	9
7月	34	25	9
8月	34	25	9
9月	34	25	9
10月	34	25	9
11月	34	25	9
12月	34	25	9
1月	32	23	9
2月	31	22	9
3月	31	22	9
合 計	399	292	107

(2) 年齢別構成(3月31日現在) (人)

年齢区分	男	女	計
20~29歳	2	5	7
30~39歳	8	3	11
40~49歳	4	0	4
50~59歳	6	0	6
60歳以上	2	1	3
計	22	9	31

(3) 障害支援区分(3月31日現在) (人)

障害支援区分	男	女	計
5	1	0	1
3	5	1	6
2	7	3	10
1	1	3	4
非該当	1	0	1
未調査	7	2	9
計	22	9	31

(4) 日中活動別構成 (3月31日現在) (人)

日中活動	男	女	計
一般企業等	1	1	2
A型事業所	5	0	5
B型事業所	16	8	24
計	22	9	31

(5) 出身地別構成 (3月31日現在) (人)

市町村	男	女	計
岡山市	3	2	5
倉敷市	1	0	1
玉野市	3	0	3
井原市	1	1	2
総社市	2	0	2
高梁市	3	2	5
瀬戸内市	1	0	1
真庭市	2	1	3
里庄町	0	2	2
吉備中央町	2	0	2
東広島市	1	0	1
福山市	1	0	1
香川県観音寺市	1	0	1
高知県宿毛市	0	1	1
島根県美郷町	1	0	1
計	22	9	31

4. 生活支援等の状況

(1) 食事提供

食事希望者へ、食事保健委員会での協議や嗜好調査を踏まえ、季節感のある食事が提供できた。

(2) 健康・衛生管理

朝・夜の利用者確認を実施し、異常等の早期発見に努めた。また、集団で生活していることから、インフルエンザやノロウイルスなどの感染性の疾患についても懸念されていたが、うがいや手洗いの励行・マスクの着用など周知することで、集団感染を予防することができた。食事制限など必

要な方には、健康管理の大切さなど助言を行うなど、安心できるサービス提供を実施した。

5. その他

(1) 契約解除

契約解除月	理由	人数
28年10月	自宅の生活へ移行	1人
28年12月	高齢者施設へ移行	2人
29年1月	自宅の生活へ移行	1人
計		4人

(2) 安全管理

消防計画に沿って防災訓練や定期設備点検を行い、利用者の安全確保に努めた。

月日	内容
7月28日	防災機器点検、消火訓練
8月19日	合同訓練(避難誘導・通報訓練) 希望喫煙室から出火想定 対象利用者 25人
1月20日	防災機器点検
2月27日	消火訓練
2月24日	合同訓練(避難誘導・通報訓練) ヴェスタ食堂から出火想定 対象利用者 21人

(3) 苦情解決

自治会役員と定期的に意見交換会(年5回)を実施し、利用者からの要望を聞き、改善可能なものは実施した。また、11月21日に第三者委員会を開催し、意見交換会の内容を報告するとともに、第三者委員と自治会役員が直接意見交換を行った。

【利用者自治会役員意見交換会】

月日	内容
5月31日	自治会長他1人 特になし
7月20日	自治会長他4人 ・男子寮トイレの蛍光灯が、点灯時間が掛かる。
10月4日	自治会長他4人 ・各棟にある冷蔵庫の温度が「強」になっている事がある。

11月21日	第三者委員会 自治会長他3人 利用者同士の口論が多くなった。特に年齢の高い人が細かい事を言う人が多い。
12月13日	自治会長他4人 ・女子トイレのコーナーにある入れ物が邪魔。
2月15日	自治会長他4人 ・メルヘンのパンの販売の時になでしこの利用者が割り込んでくる。

【ヒアリハット】

月 日	内 容
6月29日	万引き。 医療リハビリセンターの売店で、ボールペン一本を万引きする。「お金が少なかった。」との事であるが所持金は十分にあった。保護者、相談センター、手話通訳士などと支援会議実施。
7月24日	後頭部裂傷。 洗濯干し中に転倒する。医療リハビリテーションセンターにて5針縫合。保護者へ連絡一週間自宅療養。
9月6日	左大腿部の火傷。 居室で、インスタントみそ汁

	にお湯を注いでいた時にバランスを崩し熱湯がモモに落ちた。2時間後に本人から報告あり。ご家族、福祉、事業所へ連絡し対応。2週間入院治療。
9月13日	岡山市内で泥酔。 前日から外泊しコンサート行く。その帰りに、ビールを飲みすぎ泥酔状態になり帰寮できなくなった。転倒したらしく、左額を打撲し内出血する。母親に連絡し対応。レントゲン等異常なし。
9月23日	腰痛のため緊急入院。 事業所から帰寮中に、急に腰が痛くなり動けなくなる。医療リハビリテーションセンターへ受診し3日間入院。特に異常なし。体重の増加を注意。身元引受人なし。

【 第三者委員名簿 】

所 属	氏 名
吉備国際大学 保健福祉学部教授	山北 勝寛
塚本内科医院 居宅介護事業所管理者	柳原富美男

吉備の里希望(就労継続支援B型事業)
平成28年度 事業報告書

1. 概要

平成24年4月より、定員40名の就労継続支援B型事業所として運営を開始して5年目を迎えた。生産活動を主体とした個別支援計画に基づき、日中活動の充実を図った。

【事業推進体制】

利用定員 40名	
体制	管理者 1名
	サービス管理責任者 1名
	生活支援員 3名
	職業指導員 7名
	目標工賃達成指導員 1名
	常勤換算 8.4人

2. 事業目標への取り組み

(1) 生産活動の充実

継続して「湯郷ベルホームゲームでの販売」や各種イベント等へ出店し販売量の拡大が行えた。また、「岡山シーガルズ」「後楽園内のお土産物屋」など新規販売先の確保に努めた。下請け受注作業においても、自動車部品加工(コルゲート、芯金ほか)を中心とし、個々のニーズ(個別支援計画)に沿った作業の提供を行うことができた。

(千円)

作業収入	平成27年度	平成28年度
下請作業	6,927	6,419
自主生産	7,357	7,886
計	14,284	14,305

(2) 工賃の引き上げ

目標工賃(平均月額)を18,281円としていたが、平成28年度実績(岡山県報告)19,601円を報告することができた

【工賃実績】 (円)

	平成27年度	平成28年度
目標工賃	17,000	18,281
月平均工賃	19,508	19,601
(延べ人数)	(439人)	(475人)
工賃支払総額	8,564,140	9,310,610

(3) 利用の促進

相談支援センター、支援学校、市町村訪問など利用促進のPRを実施し、平成28年度は6名の新規利用契約ができた。

【新規契約】

契約月日	出身地域	居住先
4月1日	吉備中央町	高齢者施設
4月1日	浅口市	吉備の里GH
7月6日	吉備中央町	在宅
8月1日	吉備中央町	吉備の里GH
10月24日	高梁市	希望福祉ホーム
2月1日	倉敷市	吉備の里つばき

【契約解除】

解除月日	理由
4月1日	職場復帰
10月26日	地域生活移行(家庭)
12月23日	事業所変更(生活介護)
1月31日	地域生活移行(家庭)

3. 利用者の状況

(1) 契約の状況

定員40名に対して月平均契約者数は41名、月平均利用者数は35.9名で、利用率は91%であった。

(人)

月	契約数	開所日	延数	利用率
28.4月	41	21	787	94%
5月	40	22	786	90%
6月	40	23	830	91%
7月	40	22	794	91%
8月	42	22	813	93%
9月	42	22	779	89%
10月	42	21	751	90%
11月	42	22	782	89%
12月	42	22	771	88%
29.1月	41	22	737	88%
2月	41	20	722	91%
3月	41	24	874	92%
合計	494	263	9,426	91%

(2) 年齢別構成 (3月31日現在)

利用者の年齢は、男性の平均年齢は、43.9歳、女性の平均年齢は36.6歳で全体の平均年齢は41.9歳であった。(最高69歳) (人)

年齢区分	男	女	計
20～29歳	4	5	9
30～39歳	7	5	12
40～49歳	6	3	9
50～59歳	4	1	5
60歳以上	4	2	6
計	25	16	41

(3) 障害別構成 (3月31日現在) (人)

障害支援区分	男	女	計
肢体不自由	17	9	26
視覚障害	1	2	3
聴覚障害	1	1	2
知的障害	6	4	10
計	25	16	41

(4) 居住別構成 (3月31日現在) (人)

居住場所	男	女	計
希望福祉ホーム	16	8	24
吉備の里GH	4	2	6
つばき寮	1	1	1
高齢者施設	1	1	2
自宅	3	4	10
計	25	16	41

4. その他

(1) 防災

消防計画に沿って、通報・避難・消火等の訓練を実施するとともに、委託業者による消火器・誘導灯・非常放送などの設備点検を実施した

月日	内容
6月10日	合同避難訓練(避難誘導) ひなぎく作業棟ボイラー室出火 利用者 36人
7月28日	防災機器点検、消火訓練
11月18日	合同避難訓練(避難誘導) 地震想定震度5弱 利用者 35人
1月20日	防災機器点検
2月27日	消火訓練

(2) 健康管理

総合健康診断・歯科検診等を実施し、利用者の健康管理に努めた。

【検診等】

月日	内容
6月8日	歯科検診：大森歯科医院 受診34人、要治療16人
9月20日	検便(提出者44人)異常なし
9月20日	大腸がん検診 14人 陽性2人(検診異常なし)
10月28日	総合健康診断 38人
11月8日	健康づくり財団
11月15日	インフルエンザ予防接種 賀陽クリニック 33人

(3) 利用者研修

月 日	内 容
5月21日	・利用の心得について ・工賃について 利用者 37人
7月23日	・あいサポート研修 利用者 34人
10月21日	・研修旅行(香川県) NEWレオマワールド 利用者39人 保護者5人
1月28日	・間食と肥満予防 外部講師 岡山県栄養士会 利用者31人
3月25日	・工賃実績について ・今年度の振り返り ・防災ヘルメット着用説明 利用者34人

(4) 行事

月 日	内 容
5月7日	・歓迎会 利用者40人 保護者10人
8月13日	・サマーパーティー 梶谷基金助成事業 利用者34名 保護者6人
10月27日	・施設利用者交流会 場所：かわかみ療護園 利用者2人
12月17日	・利用者忘年会 利用者47人
1月13日	・利用者初詣 吉川八幡宮 自治会役員5人

(5) 苦情解決

自治会役員と定期的に意見交換会(年5回)を実施し、利用者からの要望を聞き、改善可能なものは実施した。また、11月21日に第三者委員会を開催し、意見交換会の内容を報告するとともに、第三者委員と自治会役員が直接意見交換を行った。

【利用者自治会役員意見交換会】

月 日	内 容
5月31日	自治会長他1人 特になし。
7月20日	自治会長他4人 ・私語が、作業中に多いので注意してほしい。
10月4日	自治会長他4人 ・作業棟の紙コップを自室に持って帰らないで欲しい。
11月21日	第三者委員会 自治会長他3人 B型事業への要望等なし。
12月13日	自治会長他4人 ・仕事中にタバコを吸いに行く人がいる。
2月15日	自治会長他4人 特になし。

【第三者委員名簿】

所 属	氏 名
吉備国際大学 保健福祉学部教授	山北 勝寛
塚本内科医院 居宅介護事業所管理者	柳原富美男

吉備の里なでしこ 平成28年度 事業報告書

1. 概要

知的障害者を中心に、自立訓練（生活訓練）事業、就労移行支援事業を実施し、家庭の支えが弱い利用者や通所が困難な利用者には、併せて施設入所支援を行った。

自立訓練では地域生活を送るために必要な日常生活スキルの向上を、就労移行支援事業では一般就労等への移行を目標とし、それぞれに訓練や支援を行った。

また、施設入所支援においては、規則正しい生活、楽しみのある生活を念頭に様々な支援を行った。

2. 事業目標の検証

（1）就労移行・地域移行の推進

平成28年度に就労移行支援の利用を終了する予定の11名に対し、求職活動を積極的に展開した結果、全員を一般就労又は就労継続支援A型事業書へ就職させることができた。内訳は次のとおり。

区 分	男	女	計
一般就労	1	1	2
就労継続支援A型	8	1	9
計	9	2	11

また、上記11名のうち9名については施設入所支援事業利用者であり、就職に伴って全員を希望する地域又は宿泊型自立訓練へ移行することができた。

なお、自立訓練の利用を終了した1名についても自宅復帰した。内訳は次のとおり。

区 分	男	女	計
地域移行（GH）	3	0	3
（自宅）	2	2	4
宿泊型自立訓練	3	0	3
計	8	2	10

（2）新規利用の促進と定員の管理

毎年10人前後の退所者があることから、新規利用者の確保へ向けたPR活動や体験利用の受け入れを積極的に行い、利用定員の充足に努めた。

支援学校の新卒者の利用は10名、その他に専門学校卒業生1名、計11名の新規利用者を確保することができた。

所 属	男	女	計
誕生寺支援学校	1	2	3
岡山東支援学校	1	1	2
西備支援学校	2	0	2
倉敷支援学校	1	0	1
倉敷まきび支援学校	1	0	1
琴浦高等支援学校	1	0	1
岡山科学技術専門学校	1	0	1
計	8	3	11

※支援学校はいずれも高等部

また、定員管理は第1表、第2表のとおりとなり、就労移行支援事業の求職活動を下半期に集中させることで、定員に沿った運営を行うことができた。

3. 利用者の状況

日中活動において、自立訓練事業では定員20人に対して一日平均19.8人、就労移行支援事業では定員20人に対して一日平均18.7人の利用があった。

一方、施設入所支援においては、一日平均33.9人の利用があり、40名の定員を下回った。

利用者には、新規学卒者が多いこと、利用年限が概ね4年間に限られることから平均年齢は20.7歳となり、引き続き若年世代の利用が多くなっている。

本年度の各月末における入退所の状況及び平成29年3月現在の利用者の状況は次のとおりである。

第1表 日中活動の利用状況

事業 月	自立訓練事業 (定員20名)			就労移行支援事業 (定員20名)		
	初日	入所	退所	初日	入所	退所
4月	21	9	0	20	7	0
5月	21	0	0	20	0	0
6月	21	0	0	20	0	0

7月	21	0	0	20	0	0
8月	21	0	0	20	0	0
9月	21	0	0	20	0	0
10月	21	0	0	20	0	0
11月	20	0	1	20	0	0
12月	20	0	0	21	1	0
1月	20	0	0	21	0	1
2月	20	0	0	20	0	0
3月	20	0	12	20	0	10
計	247	9	13	243	8	11

(障害支援区分)

区 分	男	女	計
1	6	1	7
2	12	6	18
3	6	3	9
4	5	0	5
5	0	0	0
6	0	0	0
未判定	1	0	1
計	30	10	40

第2表 施設入所支援（定員40名）の利用状況

月	初日在籍	月内入所	月内退所
4月	38	8	0
5月	38	0	0
6月	38	0	0
7月	38	0	0
8月	39	0	0
9月	38	0	0
10月	38	0	0
11月	38	0	0
12月	38	0	0
1月	38	0	1
2月	37	0	0
3月	37	0	9
計	454	8	10

第4表 年齢別内訳

区 分	男	女	計
20歳未満	4	3	7
20～29歳	24	7	31
30～39歳	2	0	2
40～49歳	0	0	0
50～59歳	0	0	0
60歳以上	0	0	0
計	30	10	40

第3表 障害の状況

(療育手帳区分)

区 分	男	女	計
A	1	0	1
B	28	9	37
なし	1	1	2
計	30	10	40

第5表 出身地別内訳

出身地	男	女	計
岡山市	3	1	4
備前市	1	0	1
赤磐市	0	1	1
吉備中央町	3	1	4
倉敷市	4	1	5
総社市	2	0	2
笠岡市	2	2	4
浅口市	0	1	1
高梁市	1	1	2
新見市	1	0	1
津山市	6	1	7
真庭市	1	0	1
美作市	1	0	1

美咲町	0	1	1
里庄町	1	0	1
鏡野町	1	0	1
奈義町	0	1	1
広島市	1	0	1
たつの市	1	0	1
計	30	10	40

4. 個別支援計画策定

利用者の意向、適性、障害の特性、その他の事情を勘案して「個別支援計画」を作成し、これに沿って利用者に対し生活訓練事業、就労移行支援事業及び施設入所支援の障害福祉サービスを提供した。

また、その効果についてサービス調整会議をとおし、3ヶ月ごとにモニタリングを行い、継続的な評価や計画の見直しを行った。

5. 事業の実施状況

利用者個々のステップアップに向け、個別支援計画に沿って、体力づくり、日常生活技能訓練、社会生活適応訓練、作業訓練、職業準備訓練等を実施した。

(1) 自立訓練（生活訓練）事業

① 概要

地域生活を営むうえで必要な日常生活スキルの維持、向上を図るための訓練を行うとともに、就労移行支援や就労継続支援B型等の事業へつなげるための訓練を次のとおり実施した。

② 訓練プログラム

・日常生活訓練

身だしなみ、掃除、洗濯、金銭管理等の生活スキルの基礎訓練をはじめ、社会生活技能訓練（SST）や調理等を実施した。

・作業訓練

法人内他施設の清掃作業、自動車部品組立準備作業、野菜づくり、漬け物加工作業などを基礎訓練として行った。

作業により得られた収入の中から必要経費を

差し引き、訓練手当として利用者に還元した。

第6表 作業収入の状況

作業種	収入金額
清掃作業	1,800,000円
芯金作業	382,872円
農産・加工	248811円
合計	2,431,683円

第7表 訓練手当の支給状況

事業種別	平均支給月額
自立訓練事業	6,890円/人 (対前年 292円減)

・施設外訓練

外出訓練として、バス、JR等公共交通機関を利用した買物、余暇活動等を行うとともに、退所後の生活の場の検討に向け、吉備の里つばき寮やグループホームの見学を行った。

・進路支援

利用期間満了を迎える利用者に対して、進路の相談と退所に向けた支援を行った。その結果第8表のとおり移行することとなった。

第8表 利用終了後の移行状況

移行先	人数
就労移行支援事業（事業所内）	12
家庭復帰	1
計	13

(2) 就労移行支援事業

① 概要

生産活動や職場実習の機会を提供しながら、就労に必要な知識及び能力の向上を図り、利用2年目となる利用者を中心に求職活動を展開した。

また、就職した訓練修了者に対しては、職場への定着のために必要な相談や支援等を実施した。

② 訓練プログラム

・作業訓練

施設内訓練として花卉栽培作業を通じて、清掃、計数、運搬等の職業準備訓練を行い、施設外訓練として吉備高原都市エリアにある事業所において実習訓練を行った。

作業により得られた収入の中から必要経費を差し引き、工賃として利用者に還元した。支給月額平均は実習参加者の縮小等から前年度と比較して1,226円の減額となった。

第9表 作業収入の状況

作業種	収入金額
実習作業	2,849,654円
花卉栽培	2,060,905円
合計	4,910,559円

第10表 工賃の支給状況

事業種別	平均支給月額
就労移行支援事業	16,116円/人 (対前年1,226円減)

・生活支援

自立訓練事業利用時から行っている生活スキルの向上に引き続き取り組むとともに、公共交通機関での外出、買物、通院支援等を実施した。

また、吉備の里地域生活ホーム等との連携により、グループホームの見学を実施して地域移行についての学習を行った。

・利用者研修

就労へ向け、社会生活技能訓練（SST）や就労意欲の向上を図るための研修会を開催し、移行へ向けた支援を実施した。

・求職活動支援

利用期間満了を迎える利用者を中心に、公共職業安定所、障害者職業センター等障害者雇用支援機関との連携を図りながら、職場見学、就職面接会、個別面接、企業実習等への参加支援を行った。その結果第11表のとおり対象者全員を移行することができた。

なお、就職退所者については、就業・生活支援

センター、相談支援事業所等と連携して就労後のフォローアップ、アフターケアにより、就労定着及び生活の安定に向けた支援を実施した。

第11表 利用終了後の移行状況

就職先	所在地	区分	人数
マイコー(株)	高梁市	一般	1
シノブフーズ(株)	総社市	一般	1
岡山ハーモニー	吉備中央町	A型	2
吉備高原 PAKARA	吉備中央町	A型	1
アグリネット加賀	吉備中央町	A型	1
ワケネットうかん	高梁市	A型	1
やまなみ	高梁市	A型	1
ワケネット住倉	倉敷市	A型	1
スタート・ワーキング・スタート	美作市	A型	2
計			11

(3) 施設入所支援

・日常生活支援

寮生活を通じて、清掃・洗濯・入浴・食事・健康管理・衛生管理・余暇活動・金銭管理等について必要に応じて個別の支援を行った。

・行事

施設での生活において、利用者がゆとりと活力に満ちた生活が送れるよう第12表の行事を行なった。

なお、行事の企画にあたっては、利用者が参加するなどし、利用者の意向を取り入れることに努めた。

第12表 行事開催・参加の状況

月日	件名	場所
4.1	新利用者歓迎式	施設内
4.10	花見会	施設内
4.29	第1回利用者研修	施設内
5.8他	県障害者スポーツ大会	岡山市他
6.5	吉備の里ふるさと祭	施設内

7. 9	利用者研修旅行	蒜山・姫路
8. 29	第2回利用者研修	施設内
9. 18	ミニ運動会	施設内
9. 22	中国地区親善球技大会	出雲市
10. 9	ロードレース大会	都市内
11. 6	保護者会バス旅行	兵庫県内
11. 23	第3回利用者研修	施設内
12. 4	餅つき他	施設内
12. 11	クリスマス会	施設内
1. 6	成人式	施設内
2. 11	第4回利用者研修	施設内
3. 25	訓練修了祝賀会	岡山市

・健康管理支援

嘱託医による健康診断を毎月1回実施しながら、異常が認められた者や変調を訴えた者について、看護師及び支援員が医療機関に引率受診するなどの支援を講じた。

11月に利用者32名、職員12名が予防接種を行うとともに、マスクの着用やうがい・手荒い呼びかけた結果、利用者のインフルエンザ感染・発症はなかった。

また、入院については、利用者1名が統合失調症により精神科へ4回、延べ276日間した他、脳外科へ1名が25日間、整形外科へ1名が9日間、耳鼻咽喉科へ1名が9日間入院治療した。

・自治会活動

行事の企画参加、施設への要望の取りまとめ、生活上のルール作りなどを利用者の自主的活動としての自治会活動を尊重し、側面から指導・支援した。

6. その他の施設運営

(1) 見学・利用相談・体験利用の受け入れ

市町村や相談支援事業所、支援学校等と連携を図るとともに、見学や利用相談を積極的に受け入れた。

その上で、施設をより深く理解してもらうため、在宅障害者2名、進路を検討する支援学校3年生13名、1・2年生2名を、空き部屋等を活用した3日～3週間程度の体験利用として延べ31回にわたり

受け入れた。

その結果2名が平成29年度当初に、10名が利用を開始することとなった。

第13表 体験利用の状況

区 分	利用者数	実施回数
在 宅 者	3	3
高等部3年生	13	25
高等部1・2年生	2	2

(2) 苦情解決

施設内における苦情処理責任者・苦情受付担当者及び外部の第三者委員を配置して解決体制を整えた。

その結果、苦情は1件（職員の対応に関するもの）で、第三者委員による調整なく、解決に至った。

その他、利用者同士のトラブルや逸脱行為、職員の不注意から生ずるヒヤリハット事例等6件について、年3回開催した第三者委員会において委員に報告した。

第14表 第三者委員名簿

役 職 名	氏 名
吉備国際大学 副学長 社会福祉学部教授	保積 功一
元吉備中央町知的障害者相談員	吉岡 喜代子

(3) 事件・事故の発生

岡山県備前県民局及び出身市町村に対して報告を行う事故は6件発生した。その内2件は同一利用者であり、てんかん発作による転倒・負傷であった。

また、利用者による損害賠償責任保険を適用した器物破損等の事件・事故は8件発生した。

(4) 防災対応

各施設の防災担当で組織する防災委員会により、避難・通報・消火等の訓練方法について確認しながら実施するとともに、設備点検（業者委託）や消火器・避難経路等についての自主点検を実施した。

その結果不良や不備が認められた点については、速やかに改善を行った。

(5) 防犯対策

神奈川県相模原市の障害者支援施設で起きた利用者殺傷事件を受けて、催涙スプレーの配置、防犯カメラの設置（3カ所）、フェンスの修復等設備面の防犯対策を行った。

また、職員を対象とした不審者対応講習会の開催、保護者への利用者帰寮時間の徹底依頼等ソフト面の対策も併せて行った。

(6) 施設・備品等の整備

建設から30年以上を経過し、老朽化しつつある施設の維持・補修に努め、次の工事を行った。

- ・水道管の腐食による漏水の復旧工事
- ・男女居室カーペットの張替工事

また、落雷により機器の破損があったため、損害保険の適用を受け、次の工事を行った。

- ・女子居室3号室エアコンの修繕工事
- ・非常用電源設備（発電機）の修繕工事

さらに、経費節減を図ることを目的として、次の工事を行った。

- ・施設内照明をLED灯に交換工事（非常灯・誘導灯を除く）

その他、安全・衛生・美化の推進を心がけ、施設の保全に努めた。

(7) 学生実習・ボランティアの受け入れ

学生の福祉実習については、養護実習として大学・短大8校から15名を受け入れたが、介護実習として予定していた専門学校生2名については、宿泊場所が確保できず、中止となった。

また、ボランティアや福祉体験として学生を中心に25名を受け入れた。

(8) 指導監査・実地指導

施設運営・利用者支援等に関して、所管する岡山県から次のとおり指導監査及び実地指導があった。

① 指導監査

実施日：平成28年9月 8日

実施者：岡山県備前県民局福祉振興課

結果：文書指導はなく、5項目にわたる口頭指導があり、改善報告を行った。

② 実地指導

実施日：平成28年6月16日

実施者：岡山県備前県民局健康福祉課

結果：改善報告事項1件、自主改善事項

1件の指摘があり、改善報告を行った。

(9) その他

・18歳選挙への対応

平成28年度から選挙年齢が18歳に引き下げられたことに伴い、全利用者が選挙権を有することとなったため、次の選挙にあたっては、家族への引率呼びかけや投票支援を行った。

7月24日（日） 参議院議員選挙

10月23日（日） 岡山県知事選挙

吉備の里ひなぎく（就労継続支援B型事業）
平成28年度事業報告書

1. 概 要

平成25年4月より障害福祉サービスの就労継続支援B型事業所（定員25名）の単独施設として運営を開始し、おしぼり作業を中心に生産活動や就労に必要な知識の習得や能力の向上に向けた支援を行った。27年4月1日からは定員を30名に増員し、多くの障害者の方の活動の場となっている。

2. 事業計画の重要事項

①利用率の確保

定員30名に対し、34名の方と利用契約を行い、月平均利用者数は28.7人、年間利用率95.6%であった。

第1表 利用率及び福祉収入の状況

区分	26年度	27年度	28年度
定員	25名	30名	30名
開所日	269日	272日	268日
延利用者数	7,424人	7,423人	7,695人
月平均利用者数	27.5人	27.2人	28.7人
利用率	110%	90.6%	95.6%
収入 (単位：千円)	53,179	53,615	59,521

(※利用率計算について少数点第二以下切り捨て)

②利用者支援の充実

利用者及び家族と個別懇談を行い、利用者の意向、適性その他の事情を勘案し「個別支援計画」を作成し、個々の利用者へ生産活動を通じ、社会生活に必要な支援を行った。

③利用者工賃の向上

時間単価を前年度より11円、月額平均支給額3円、増額支給することができ、岡山県B型事業所の平均賃金を上回る支給ができた。

第2表 工賃支給状況 (単位：円)

区分	26年度	27年度	28年度
年支給額	7,440,874	7,464,340	8,193,135
時間単価	175	179	190
月額平均額/人	20,727	20,792	20,795
岡山県B型 工賃実績	12,126 (25年度)	12,873 (26年度)	13,254 (27年度)

第3表 作業収入状況 (単位：千円)

区分	26年度	27年度	28年度
おしぼり	41,871	44,902	43,213
自動車部品	211	17	0
合計	42,082	44,919	43,213

3. 利用者の状況

第4表 利用者の状況

月	開所日数	延利用者数	月平均利用者数	利用率
4	22日	642人	29.1人	97.0%
5	23日	646人	28.0人	93.3%
6	23日	666人	28.9人	96.3%
7	23日	671人	29.1人	97.0%
8	23日	657人	28.5人	95.0%
9	22日	627人	28.5人	95.0%
10	22日	641人	29.1人	97.0%
11	23日	654人	28.4人	94.6%
12	22日	623人	28.3人	94.3%
1	21日	618人	29.4人	98.0%
2	20日	574人	28.7人	95.6%
3	24日	676人	28.1人	93.6%
計	268日	7,695人	28.7人	95.6%

(※利用率計算について少数点第二以下切り捨て)

第5表 年齢構成 平成29年3月末日

年齢区分	男	女	平均年齢
20未満	1人	0人	35.8歳
20～29歳	5人	2人	
30～39歳	12人	5人	
40～49歳	4人	3人	
50歳以上	2人	0人	
合計	24人	10人	

第6表 利用者の居住先 平成29年3月末日

区分	自宅	GH	つばき寮	その他
男	15人	7人	2人	0人
女	5人	4人	1人	0人
計	20人	11人	3人	0人

第7表 送迎車両利用状況（平成28年3月末日）

区分	岡山便	倉敷便	町内便
男	5人	5人	3人
女	2人	3人	1人
計	7人	8人	4人

4. 事業内容の状況

① 相談及び援助

相談支援センター及び各関係機関と連携し、利用者の心身の状況や健康等の把握に努め、利用者及び家族に対し適切な情報提供を行った。

② 生産活動

おしぼり生産作業においては安定した作業量の受容があり、作業を通じての就労意欲、作業する上でのマナー及びルールを指導し、作業能力や社会性の向上を図ることができたが、自動車部品のリサイクル作業においては、取引先からの受注がなく、安定した生産活動を維持することができなかった。

③ 社会参加

所内行事及び他団体との交流会を実施し、利用者の社会性の向上を図った。

第8表 社会参加状況

日程	内容
4月	歓迎会・花見会
5月	ボウリング大会
6月	ふるさと祭り
10月	おしぼり協会懇親会
11月	社会見学及び研修旅行
1月	初詣・新年会
3月	慰労会

④ 職場実習、求職活動等の支援

利用者の適性や希望（意向）を尊重し求職活動を行ったが、就労へ移行することはできなかった。女性利用者1名が作業適性と本人の意向から法人内の同じB型事業所（希望）へ利用変更を行った。

（食事提供）

利用者をメンバーに加えた食事保健委員会で協議や嗜好調査を行い、栄養バランスがとれた季節感ある食事の提供を行った。

（健康管理）

定期健康診断の実施と作業後の手洗い・う

がいの励行に努めた結果、新型インフルエンザに感染する利用者は発生しなかった。

5. その他

（安全管理及び防災対策）

日々の作業開始前に作業時の安全・危険防止について、繰り返しの指示、指導を行うとともに通報・消火訓練等を実施した。また、業務委託による設備点検に加え消火器・避難経路等についての自主点検を実施した。更に地震発生時の避難訓練も行った。

（職員研修）

各研修会を通じ、全職員が利用者支援の基礎から専門分野に至るまでの個々の段階に応じた研修に参加し、自らの資質向上に努めた。

（苦情解決）

第三者委員会を年3回（7月・11月・2月）開催した。利用者及び保護者からの苦情受け付けはなかったが、事業所が運行している送迎車両の運行における苦情が一般住民より2件寄せられ、送迎担当者会議にて再発防止策を検討し、第三者委員へ報告を行った。

第9表 苦情内容

年月	内容	対策
28年4月 倉敷便	速度超過運転の苦情	車両に取り付けてあるドライブレコーダーにて運行状況の確認を行い、送迎運転手への厳重注意と安全運転励行への指導
28年9月 町内便	待ち時間を利用し運転手及び利用者によるたばこのポイ捨て行為	送迎運転手及び喫煙利用者に厳重注意 喫煙者としてのマナーの自覚と喫煙の際には携帯灰皿を必ず使用することの徹底

第10表 事故報告

年月	内容	対策
28年4月	「グレーティング」が跳ね、保護者自動車へ物損被害	「グレーティング」箇所をコンクリートへの埋め込み
29年3月	送迎車両事故	安全運転の励行及び運行ルートの徹底

第11表 第三者委員

吉備国際大学副学長	保積功一
吉備中央町知的障害者相談員	吉岡喜代子

吉備の里たんぽぽ（生活介護事業）

平成 28 年度事業報告書

1. 概要

定員 20 名の生活介護事業所として、新設移転して 4 年月となる。活動内容は、自立に向けた生活支援を行いながら、絵画・切り絵・さをり織り等の創作活動等を提供している。今年度は、利用者の平均障害支援区分が昨年度の 3.6 から 4.0 へと変化した。障害の変化に応じプログラムを見直すことで利用者の参加出来る活動を増やした。

2. 事業計画の重要事項

① 利用率の向上

4 月から 18 名で活動を開始した。6 月からは 1 名利用が増えた。月平均約 73% の利用率であった。利用者の体調不良による長期欠席があり、中期は利用率が減少したが、後期は持ち直した。

② 利用者の活動の充実

重度化・高齢化対応策として、音楽活動や書道とともに、絵手紙・体操・造形体育の外部講師による活動を実施した。また、利用者の健康増進のため、バランスボールを使用したストレッチ等の新規プログラムを取り入れた。

(1) 利用者の状況

月	契約数	開所日数	延利用人数	利用率 (%)
4	18	22	319	75
5	18	23	316	70
6	19	22	316	75
7	19	23	310	70
8	19	23	309	70
9	19	22	299	70
10	19	23	307	70
11	19	22	306	70
12	19	23	324	75
1	19	22	316	75
2	19	20	297	75
3	19	23	331	75
計		268	3,750	72.5

(2) 平均障害支援区分

区分	利用者	男	女	平均区分
2	2	0	2	4.0
3	2	2	0	
4	8	6	2	
5	4	2	2	区分 6-5 の割合
6	3	3	0	29%
計	19	13	6	

(3) 年齢構成

年齢区分	男	女	平均
20 未満	0	0	39.3 歳
20～29 歳	4	1	
30～39 歳	5	2	
40～49 歳	3	0	
50 歳以上	2	0	
60 歳以上	0	2	
計	14	5	

(4) 利用者の居住先

	自宅	つばき寮	グループホーム
男	10	0	4
女	4		1
計	14	0	5

(5) 送迎車利用状況

	岡山便	倉敷・総社便	吉備中央町内
男	4	3	4
女	2	2	0
計	6	5	4

(6) 利用者の状況

項目	人数	内容
体験利用	1	支援学校（女性）
新規利用	2	男性 2 名

新規利用者 2 名であった。その後は相談または見学等は受け付けた。新年度の利用はない。

(7) 外部講師による活動状況

内容	開催日	内 容
絵手紙	第三 火曜日	実物の題材から筆または割り箸にて模倣して描く。
体 操	第三 水曜日	ゲーム・ボールなどで機能維持・気分転換を図る。
造 形	第二、四 木曜日	油および紙粘土を素材にして、個々の特徴が現れる作品の制作。
体 育	第一、三 金曜日	レクリエーションを通じて身体機能維持増進を図る。

(8) 地域ボランティア活動

活 動 場 所	日 程	内 容
特別養護老人ホーム 吉備高原賀陽荘	第四 月曜日	レクリエーション補助、行事交流等 実施
総 社 宮	第三 水曜日	老人クラブと 合同で清掃奉 仕作業を実施

(9) 行事・施設外活動等

日 程	場所・展示・内容
28.4.16	花見会
5. 3	調理 ホットケーキ
5.21	オカリナ演奏ボランティア来所
6. 5	ふるさと祭り
6.20	◇トマト銀行作品展
6.22	いちご狩り
7.11	社会見学(安富牧場)
7.18	家族交流会
8. 8	◇大和郵便局作品展
8.12	とうもろこし狩り
9. 1	◇かかし祭り出展
9. 5	かかし祭り見学
10.12	研修旅行(広島県福山市方面)
11.14	◇さん太ギャラリー作品展
11. 3	調理 スイートポテト
12. 1	◇県庁アートギャラリー
12.23	調理 お菓子作り
12.24	ホワイトパーティー
1.11	初詣 総社宮

◆印は、利用者創作による作品展見学

(10) 販売活動

さをり織りの製品(ワンヒース・ボール)製作に保護者の協力が得られた。その結果、販売収入が増加した。

(11) その他

【「ヒヤリ・ハット」及び「事故」報告】

日 付	内 容
28.5.6 状況	送迎車内での利用者間のトラブルが発生したため、席替えを行った。車内での利用者間のトラブルは解消したが、降車時の順番が変わり、他の利用者とのトラブルが発生したため、家族から苦情があった。
対応	降車時のマニュアルを作成し対応した。

【第三者委員】

事業所内外で発生した、ヒヤリハットおよび事故報告等を今一度検証して、適切なお意見をいただいた。今後とも透明性のある事業運営と利用者へのさらなるサービス向上に向けて取り組んでいく。

年3回実施

吉備国際大学 副学長	保積 功一 氏
元吉備中央町知的障害者相談員	吉岡 喜代子 氏

【防災対策】

通報・消火等の訓練を実施するとともに設備点検(業者委託)や消火器・避難経路等についての自主点検を実施した。日中において、地震発生時の避難訓練も行った。

【健康・衛生管理】

定期健康診断の実施のほか、看護師による毎日の健康確認に努めるとともに、体重超過や肥満傾向が見られたため、対策としてストレッチや運動を積極的に取り入れると共に、昼寝を中止した。

その結果、利用者の平均体重が減少した。

吉備の里つばき寮 平成28年度事業報告書

1. 概要

平成22年4月に新体系事業として宿泊型自立訓練事業（生活訓練）に移行し、吉備中央町内での一般就労及び法人内外の就労継続A型・法人内就労継続B型事業所や就労移行支援事業等を利用している知的障害者を中心に、日常生活スキルの向上を目的とした地域生活に向けた訓練と支援を行い、地域移行を促進した。

【事業推進体制】

利用定員		20名
組 織 体 制	管理者	1名
	サービス管理責任者	1名
	生活支援員 (内:管理者兼務)	2名
	夜間生活支援員	3名
	地域移行支援員 (内:兼務1名)	2名
	看護師	1名

2. 事業計画の重要事項への取り組み

(1) 個別訓練の充実

宿泊型自立訓練の事業において、基本となる生活時間帯の訓練を充実させることが重要となるため、個別の支援の充実を図っている。

早出勤務は起床支援の他、基本的な身辺処理等の支援を行うと共に、出勤準備と健康の把握のためチェック表を導入し支援している。

遅出勤務は、夕方から夜間にかけて、利用者の帰寮から個別の支援を開始し、金銭管理をはじめ整理・整頓の他、食事に伴う準備や片付けの支援および相談機能の充実に努めている。さらに昨年度に引き続き、夜間支援体制を継続支援しており、夜間および深夜から翌朝まで時間帯で、必要な生活習慣や就寝支援・見守り支援・居室の巡回・緊急時の対応をして、安心のある施設管理に努めた。

(2) 地域生活移行の推進

宿泊型自立訓練の原則的な利用期間は、2年間で、個別支援計画に沿って適切な場所で、適切な福祉サービスの提供を受けることができる地域移行への促進を図っている。具体的には、地域移行の体験として、グループホームで経験を重ねて、環境に慣れる支援を実施している。但し、1名については利用年数を1年延長して、地域移行に向けた訓練効果をあげる目的により、行政機関と検討した結果、継続支援を実施して、年度内には法人内グループホームへの地域移行を実施した。

(3) 利用の促進と運営の安定化

当初計画では、8名の新規利用者を想定し事業展開していた。その後、年間通じて5名の利用契約となる。一方、退所者数は年度中、年度末を通じて9名が退所し、地域移行へ進めることができた。その内、利用者2名については、吉備の里以外の法人への地域移行を実施した。

【入寮の状況】

受入前状況	人数
吉備の里なでしこ	1名
健康の森学園支援学校	1名
地域	3名
計	5名

【退所者・地域移行の状況】

移行先等	人数
吉備の里グループホーム	7名
他法人グループホーム	2名
計	9名

3. 利用者の状況

年度途中からも4月末に1名地域移行し、6月には、1名利用開始した。1月から3月にかけては、利用年数が2年目の利用者を中心に、隣接している自活訓練棟を活用して、グループホームを想定した体験利用を実施した。年間通じて安定した施設運営には課題が多いが、月平均利用者18.6人の契約者が利用することができた。年度途中での

契約解除もあり、第4四半期はさらに定員減が続いていたため、各関係機関と連携して新規利用者の利用促進に努めたが、定員の充足まで至らなかった。

① 【 利用状況 】

月	項目	内 訳		
		初日	入所	退所
4月		20	4	1
5月		19		
6月		19	1	
7月		19		
8月		19		
9月		19		
10月		19		
11月		19		
12月		19		
1月		18		1
2月		17		1
3月		17		6
計		224	5	9

② 【 障害支援区分別構成 】

障害支援区分	男	女	計
1	3	2	5
2	2		2
3	4	1	5
4	1		1
非該当	5	2	7
計	15	5	20

③ 【 手帳区分別構成 】

療育手帳区分	男	女	計
A	1		1
B	12	5	17
なし	2	0	2
計	15	5	20

④ 【 出身地別構成 】

市町村	男	女	計
岡山市	3	1	4
倉敷市	1	1	2
総社市	1		1
浅口市	1		1
真庭市	1		1
新見市	1		1
井原市	1		1
赤磐市	1		1
吉備中央町	3	1	4
美咲町	2	1	3
奈義町		1	1
計	15	5	20

⑤ 【 日中活動区分別構成 】

日中活動先	男	女	計
一般企業等	3		3
就労継続 A型事業所	7	2	9
就労継続 B型事業所	3	2	5
自立訓練事業所	1		1
就労移行事業所	1	1	2
計	15	5	20

⑥ 【 年齢別構成 】

年齢区分	男	女	計
18～19歳	1		1
20～29歳	9	3	12
30～39歳	1	1	2
40～49歳	1		1
50～59歳	3	1	4
計	15	5	20

4. 生活訓練の状況

地域生活ができるためのスキル習得を目標とした食事提供や健康・衛生管理、余暇活動支援の他、身辺処理、金銭管理等の支援を行い、地域移行に向けた日常生活スキルの向上を図った。

(1) 食事提供

吉備の里チャレンジより、業者委託を行っている食事については、食事保健委員会での協議や嗜好調査を踏まえ、季節感のある食事の提供を行った。配膳、片付け、清掃に関しては利用者全員が役割を担い、家庭の中でもできる自分の役割としての意識を高められるような支援を行った。また、土曜日は業者委託の弁当を提供し、日曜日の昼食は、利用者として職員で月1回程度、調理実習を実施して、楽しみながら簡単な調理が習得できるように設定した。

(2) 健康・衛生管理支援

定期健康診断のほか、毎月血圧、体重測定を行いながら、日常の健康管理に努めた。集団で生活していることからインフルエンザやノロウイルスなどの感染性の疾患についても懸念されていたので、うがいや手洗いの励行・マスクの着用などで予防対策を実施したが、1名インフルエンザA型の症状になった。また、重病化しないように早期の受診の同行支援の他、増加する精神科の受診支援など適切に職員が関わることで安心できるサービス提供を実施した。なお、婦人科検診などは当事者の意向を確認し適切に受けることができた。平成29年2月から、看護師を新規に配置し、個々の利用者の状況に対応し、健康管理および服薬確認など利用者の医療全般を支援した。

(3) 余暇活動支援

寮内において、利用者がゆとりと活力に満ちた生活が送れるよう行事の開催や参加を行った。開催行事の企画にあたっては、主体性を尊重し、利用者の意向や希望を多く取り入れながら、同行支援をする職員と共に安心して活動できるように努めた。

【 行事の状況 】

月・日	行事名	場所
4月	花見会	寮内
	利用者自治会総会	
	さんさん祭	町内
	新利用者歓迎会	寮内
6月	一泊旅行	東京
7月	家族の会日帰り旅行	山陰方面
	プロ野球観戦	倉敷市
8月	北部住区夏祭り・鬼伝祭	町内
9月	合同運動会(雨天中止)	町内
10月	吉備高原車いすふれあいロードレース大会	町内
	映画鑑賞・買物訓練	倉敷市
12月	忘年会	寮内
1月	家族の会新年会	岡山市
3月	退所者 送別会	岡山市

(4) 利用者研修

寮内の生活を地域生活、社会生活の一部としてとらえ、社会生活の基本を学ぶための研修を定期的実施した。多くの利用者が日常的な生活の中で自己流になっている部分などを、社会的な側面から改めて研修を行うことで、意識の改善も確認された。

5. 相談支援

個別支援計画の作成にあたり、個別懇談を開催して、利用者及び家族の意見・要望を聞きながら支援計画に盛りこむことができた。特にサービス内容の変更や他法人の支援を受けるための調整などは、サービス管理責任者を中心に当事者・家族・関係機関との間で丁寧な説明を実施し、相互の確認および利用者の意思決定の中で適切な支援に努めた。

6. その他

(1) 利用促進

新規入所について、吉備の里なでしこと連携し利用率の向上を図った。特に、今年度は相談支援事業所からの相談を受け、利用につながる契約になった。また、精神科の医療機関や法人外からの新規利用者の利用促進につながった。

(2) 見学・利用相談・体験利用の受け入れ

吉備の里なでしこをはじめ、市町村や相談支援事業所、支援学校等と連携を図るとともに、見学や利用相談を積極的に受け入れた。在宅障害者3名・特別支援学校高等部1名・吉備の里なでしこ1名、その結果、年度中に5名新規契約につながる効果となった。施設をより深く理解してもらうために、空き部屋等を活用しながら、3日～1週間程度の体験利用期間を設けて受け入れた

(3) 生活環境の整備

設備の老朽化に伴い、男性浴室および男性トイレの全面改修を実施した。生活環境の改善に努めており、利用者の生活の質の向上を目指して、快適性と安全性の向上を第一に考慮して整備した。

(4) 安全管理

消防計画に沿って防災訓練や定期設備点検を行い、不備がある場合には早急な対応に努めた。さらにAEDの更新や防犯カメラの設置を行い、利用者と事業所の安全確保を実施した。設備面だけでなく、居室の巡回・緊急時の対応をして、安心ある施設管理の強化に努めた。危機管理の研修会についても、法人内での防犯研修や県主催の危機管理研修に参加した。また公用車の安全運転には、細心の注意を徹底し、事故防止に努めた。

(5) 苦情解決

福祉サービスに対する苦情の申し出はなかった。11月には、苦情処理第三者委員との意見交換等を実施して、サービス向上のためのアドバイスを指導していただいた。

(6) 家族の会との連携

地域生活・グループホームと連携して、定期的な行事や会合に家族を含めて参加している。

(7) 地域との連携

地域住民会には北部住区自治会第6班の一員として参加し、一斉清掃や地域の各種行事を通じて、地域社会活動の関わりを深めた

(8) 利用者の自治会

利用者主体の自治会組織にて、希望に応じて行事・余暇など自主的に参画しやすいように支援しており、寮の運営管理や利用者支援については、利用者や家族の意見に耳を傾け、設備や支援方法の改善に努めた。事業所設立30周年を記念して、東京への1泊2日の研修旅行を実施した。

第三者委員名簿

所 属	氏 名
吉備国際大学 社会福祉学部教授	山北 勝寛
塚本内科医院居宅介護 事業所管理者	柳原 富美男

吉備の里地域生活ホーム 平成28年度事業報告書

1. 概要

平成28年度は、定員92名の定員で共同生活援助事業(介護サービス包括型)の運営を行っている。

共同生活住居の中での支援の質を高め、日中活動(就労等)をはじめ、日常生活支援や金銭管理の支援、医療支援及び相談支援を中心とした個別の支援の充実を図っている。

また、直接の支援者でもある世話人の支援力向上を目指して定期的に会議を開催している。

事業推進体制

利用定員		92名
体制	管理者	1名
	サービス管理責任者	4名(兼1名)
	生活支援員	4名(兼1名)
	看護師	1名
	世話人	35名

共同生活住居の設置状況

名称	入居定員	開設年度
嵯峨	6名	平成8年度
下加茂	4名	平成10年度
上野	5名	平成14年度
吉備1号(A)(B)	9名	平成15年度
吉備2号(A)(B)	10名	平成15年度
長坂	4名	平成17年度
さんSUN	6名	平成20年度
あじさい	4名	平成22年度
あざみ	2名	平成23年度
つつじ	5名	平成24年度
すみれ	4名	平成24年度
アンサンブル	8名	平成24年度
ヴェスタ	20名	平成24年度
あさがお	5名	平成27年度
計	92名	

2. 事業計画の重要事項への取り組み

(1) 希望に応じた地域への移行促進

入居者より単身生活への移行及び地域生活に向けた相談を受け、今年度は、2名の地域移行者の支援を行っている。

1名は、岡山市内での単身生活へ移行し、1名は吉備中央町にある定住促進の制度を活用し、共同生活へ移行を果たしている。

(2) 安心・安全な居住空間の確保

地域生活ホームの防災対策として、共同生活住居に自動火災報知設備を設置し、防犯カメラの設置などの安全対策を進めている。

また、食事を提供する上での衛生管理については、世話人に向けての研修を行うと共に日常的な食品管理について話し合いを行っている。

(3) 支援者間の連携の強化と支援の質の向上

共同生活住居で直接的な支援を行う世話人に対して障害への理解、具体的な支援の方法について定期的に会議を設け、支援の質の向上を図ると共に遅出勤務者が各共同生活住居を訪問し常に情報交換ができる体制に努めている。

特に世話人が事務所に気軽に入室し談話できる環境づくりに努め精神的な障壁の解除や支援の共通理解の場面設定に努めている。

入居者の多くが日中活動として、多様な事業所や福祉サービスを利用しており、日中活動の支援者とも密な連絡を図り、活動の充実に向けて取り組んでいる。

3. 入居者の状況

入居定員92名に対して月平均の入居契約者数は91名であった。

定員1名が充足していないことについては、年度末に2名の地域移行者が退去した影響があると思われる。

ただし、2名の退去後は、体験入居者の受入れを実施し段階的な入居支援を行っている。

第1表 利用（契約）の状況

月	男	女	計
4月	61	30	91
5月	62	30	92
6月	62	30	92
7月	62	30	92
8月	62	30	92
9月	62	30	92
10月	62	30	92
11月	62	30	92
12月	62	30	92
1月	62	30	92
2月	62	30	92
3月	61	29	90
計	742	359	1101

第2表 年齢別構成（3月31日現在）

年齢区分	男	女	計
20歳未満	0	0	0
20～29歳	16	6	22
30～39歳	14	12	26
40～49歳	17	5	22
50～59歳	12	5	17
60歳以上	2	1	3
計	61	29	90

第3表 障害程度区分別構成（3月31日現在）

障害程度区分	男	女	計
1	7	1	8
2	34	15	49
3	9	9	18
4	5	3	8
5	2	0	2
非該当・未	4	1	5
計	61	29	90

第4表 療育手帳区分別構成（3月31日現在）

療育手帳区分	男	女	計
A	3	1	4

B	43	23	66
身障手帳のみ	15	5	20
計	61	29	90

第5表 出身地別構成（3月31日現在）

市町村名	男	女	計
岡山市	22	11	33
倉敷市	7	3	10
玉野市	1	0	1
備前市	1	1	2
瀬戸内市	1	0	1
笠岡市	3	0	3
井原市	0	1	1
高梁市	4	1	5
津山市	2	1	3
吉備中央町	5	4	9
勝央町	0	0	0
新見市	2	1	3
赤磐市	0	2	2
真庭市	2	0	2
浅口市	1	0	1
総社市	0	1	1
岡山県以外	10	3	13
計	61	29	90

第6表 日中活動区分別構成（3月31日現在）

日中活動区分	男	女	計
一般企業等	18	11	29
A型事業所	30	10	40
B型事業所	8	5	13
生活介護事業所	3	3	6
就労移行支援事業	0	0	0
職業訓練施設	0	0	0
日中活動なし	2	0	2
計	61	29	90

4. 生活支援

世話人による日常生活(食事)支援に加え、生活支援員が通院や外出支援、余暇支援等の他、地域

生活ホームの共有部の清掃の他、入居者の意向を確認した後に居室内の清掃支援など一部介助を実施している。

(1) 食事提供

朝、夕の手作りによる調理を世話人が担う中で、アレルギーの有無に注意し、おいしい食事と共に安心して食事ができるように食事提供を実施している。

その中で男女別や年齢構成、個人の嗜好や意向と季節感に考慮しながら献立を立案しており、利用者の多くから満足しているとの声が聞かれた。

(2) 健康・衛生管理支援

7月より看護師を配置し、365日・24時間の体制で日常の健康管理の他、緊急時対応の充実を図っている。

定期健康診断のほか、必要に応じて血圧、体重測定を行いながら日常の健康管理に努めている。

生活習慣病の発生が懸念される入居者が増加しており、血糖値の測定・インシュリン注射の支援など具体的な医療支援も実施している。

(3) 金銭管理支援

利用者本人の同意を得ながら、世話人が日常的な預貯金の出し入れ、小遣い支給等の管理を行い、サービス管理責任者が、9月末・3月末時点の預り金について利用者・家族に報告を行った。

金銭の支出を理由なく制限することも障害者虐待に繋がることを支援者間で学習を実施し、直接的な支援に関わる世話人にも理解してもらうように繰り返しの指導を行っている。

(4) 求職活動・就労支援

第6表にあるように入居者の入中活動の場소가「就労継続支援A型事業所」が最も多くなっており、地域の社会資源との連携がより重要となってきた。

加齢による職業能力の低下や産業構造の変化なども今後に予想されるものであり、多様な部分について注視していくことが重要と思われる。

また、就労先事業所を訪問しながら、利用者の就労状況の把握を行い、事業所からの相談やトラブルの発生に対応するとともに必要に応じてケア会議等を開催し共通認識に努めている。

(5) 余暇活動支援

休日の時間の過ごし方を課題とする入居者の支援として、各種行事を開催し参加を促している。

開催行事の企画にあたっては、主体性を尊重し、入居者の意向を多く取り入れることに努めた。

家族の会の協力を得て、活動に対して費用の一部補助を受ける事が可能となり、大阪や東京にあるテーマパークへの旅行やプロ野球のナイター観戦などの多様な余暇に楽しむことができている。

行事開催・参加の状況

月日	件名	場所
4.9	花見会	体育館
6.5	吉備の里ふるさと祭り	所内
8.6	北部住区夏祭り	町内
10.9	ロードレース大会	町内
1.15	家族の会新年会	岡山市

(5) 入居者研修

支援している中で見られる入居者の課題などを入居者研修として座学や実践の場を設定し、社会生活の中で活用できるように支援を行っている。

入居者研修の状況

月日	件名	場所
4.9	「働く」について	所内
7.23	資生堂「ビューティー講座」	所内
3.12	「呼称」について・「防災」について	所内

(6) その他の日常生活支援

サービス管理責任者、生活支援員、世話人が協力し、家庭と連携をとりながら、各種の申請や調整等の支援を行っている。

5. 相談支援

サービス管理責任者を中心に、新規利用に関する相談や家族関係の相談、利用者間のトラブルに関する相談など、利用者の安定した生活の維持をめざして様々な相談を行っている。

日常的な相談については、生活支援員や世話人も含めて適切に対応し、入居者の安心した生活につながるよう職員間のネットワークを重視した支援を行っている。

6. その他

(1) 利用促進

つばき寮からの新規利用者を受け入れるとともに、次年度の地域移行者を想定した利用計画を立案し対応を検討している。

(2) 生活環境の整備

共同生活住居の構造物の中で老朽化している部分については、修繕を適宜実施し快適な生活に繋がるように支援を実施している。

(3) 安全管理

避難訓練や通報訓練を消防計画に沿って引き続き実施するとともに、防災機器の点検管理や避難経路の確認等を定期的の実施した。

消防署には、住居の周辺地図と家屋の写真を資料提供し、緊急時に速やかな消防、救急体制が行われるように協力を依頼している。

新しく世話人業務に就いた支援者には、救命救急法の講習に参加してもらうなど、安全管理意識の向上に努めている。

(4) 苦情解決・サービス評価

福祉サービスに対する苦情として受け付けたものは無いが、「ヒヤリハット事案」として第三者委員に報告を実施し指導を受けている。

(5) 保護者との連携

吉備の里家族の会として保護者と合同行事や定例会を開催し、意見交換やレクリエーション、共同作業、研修会等を行っている。

また、各家庭へはサービス管理責任者や世話人が中心となって日常的に連絡を取り合っている。

ただし、定期的な家族の会の参加状況は芳しくなく、特定の家族のみが取り組んでいる傾向も確認される。

(6) 地域との連携

それぞれの住居が属する地域の住民自治会に入会して地域住民と一緒に活動を行っている。

毎年の恒例行事に参加する団体としての認知も深まり、地域からのリクエストも増えている。

地域の行事や活動に参加することで障害者の地域生活への理解が深まることから今後も積極的に支援を行うものとする。

第三者委員名簿

所 属	氏 名
吉備国際大学 社会福祉学部教授	山北 勝寛
塚本内科医院居宅介護事 業所管理者	柳原 富美男

吉備の里チャレンジ

平成28年度 事業報告書

1. 概要

障害者と雇用契約を結び、外構維持管理清掃業務、建物清掃、農作物の栽培作業及び調理委託業務を行いながら、仕事に関わる知識の習得や能力・技術の向上に向けた支援を行った。

事業の内容（作業）

①	屋内清掃業務	業務委託
②	屋外整備業務	業務委託
③	給食提供業務	業務委託

組織体制

利用定員 20名	
管理者	1名
サービス管理責任者	1名
生活支援員	1名
職業指導員	9名
作業員	4名
栄養士	1名
常勤換算	14.7人

2. 事業目標への取り組み

(1) 就労機会の提供と作業能力の向上

障害者総合支援法及び労働基準法を遵守し、屋内清掃業務、外構清掃業務及び給食業務を行うことで、作業の訓練と就労支援を行なった。

また、障害特性を配慮し、それぞれの作業配置を行うことで支援を行なった。

(2) 安全で安心な職場づくり

安全には十分な配慮を行いながら作業に取り組んでいたが、今年度は2件の利用者労災事故が発生した。

対応策として、足場・周囲の確認、機器の使用、及び安全靴の着用を徹底した。

(3) 賃金

賃金については最低賃金を支給する事が出来た。
(法改正 平成28年10月1日 735円→757円)

3. 利用者（社員）の状況

（利用定員 20名）

月	在籍数 (人)	開所日 (日)	延人数 (人)	人数/日 (人)	利用率 (%)
4月	25	30	532	17.7	88.5
5月	25	31	529	17.1	85.5
6月	25	30	534	17.8	89.0
7月	25	31	521	16.8	84.0
8月	25	31	535	17.3	86.5
9月	25	30	502	16.7	83.5
10月	25	31	502	16.2	81.0
11月	25	30	477	15.9	79.5
12月	25	31	473	15.3	76.5
1月	23	31	470	15.2	76.0
2月	23	28	426	15.2	76.0
3月	23	31	477	15.4	77.0
計	294	365	5,978	16.4	81.9

入退職者の状況

入職者	0名
退職者	2名

生活の場の状況（3月末時点）

生活の場	男(人)	女(人)	計(人)
地域生活ホーム	12	6	18
つばき寮	1	1	2
自宅	2	1	3
計	15	8	23

年齢別構成（3月末時点）

年齢区分	男(人)	女(人)	計(人)
20歳未満	0	0	0
20～29歳	3	2	5
30～39歳	3	6	9
40～49歳	6	0	6
50～60歳	2	1	3
計	14	9	38.3歳

出身地別構成(3月末時点)

出身地区分	男(人)	女(人)	計(人)
岡山市	6	2	8
倉敷市	1	2	3
総社市	1	0	1
玉野市	1	0	1
笠岡市	1	0	1
真庭市	1	0	1
井原市	0	1	1
吉備中央町	4	2	6
美咲町	0	1	1
計	15	8	23

4. 作業支援の状況

各事業所から受託した外構維持管理清掃業務(草刈・草取作業、松喰木伐採、樹木剪定等)建物清掃業務(屋内清掃業務)、農作物の栽培・販売作業及び調理委託業務(法人内給食)を行った。

支援費等収入

延べ営業日	365日
延べ利用者数	5,978人
支援費等収入	38,123,510円
障害者雇用報奨金等	9,870,000円

(屋内清掃業務)

受託先及び内容

主要受託先	内容
独立行政法人 国立吉備高原職業 リハビリセンター	清掃業務
吉備中央町 企画課	吉備北公園維持管理
株式会社 吉備 NC 能力開発センター	宿舎・会社清掃業務

業務体制

職業指導員	非常勤2名(7.5h)
勤務時間	7:30~16:00(7.5h)
社員(男子)	4名
社員(女子)	5名
勤務時間	7:30~15:30(6h)

(屋外整備業務)

受託先及び内容

主要受託先	内容
吉備中央町水道課	上水道施設草刈清掃業務 簡易水道施設草刈清掃業務 浄化センター外構維持 管理業務
独立行政法人 国立吉備高原職業 リハビリセンター	プール管理業務 外構維持管理業務
独立行政法人 国立吉備高原医療 リハビリセンター	外構維持管理業務

※その他、随時受託。

業務体制

職業指導員	常勤3名
勤務時間	8:00~17:00(8h)
社員(男子)	9名
社員(女子)	0名
勤務時間	8:30~16:30(6h)

(給食提供業務)

受託先及び内容

受託先	内容
社会福祉法人 吉備の里	調理業務

業務体制

職業指導員	常勤3名
栄養士	常勤1名
作業員	非常勤4名(7.5h, 7h, 4h)
勤務時間	5:00~19:00(シフト)
社員(男子)	2名
社員(女子)	3名
勤務時間	7:10~18:45(6hシフト)

(賃金支給)

岡山県の最低賃金が平成28年10月より735円から757円に変更となり対応した。

平成28年度 賃金支給状況

内容	総支給額	平均月額
金額	27,191,285円	93,441円

(食事提供)

利用者の作業場所(屋内・外構・給食)が異なっているため、昼食については、チャレンジの提供している給食だけでなく、本人の要望を受け、外部の宅配弁当及び職業リハの食堂で取ることにしている。

(健康管理支援)

定期健康診断の実施と作業後の手洗い・うがいの励行に努めたが、新型インフルエンザに感染する利用者が数名発生したが大事にはいかなかった。

5. 相談支援

個別支援計画の作成にあたり、利用者及び家族の意見・要望を十分反映するため、個別懇談を10月、3月の2回開催し、支援計画に盛りこむことができた。多くの利用者及び家族からは、長期間の利用をしたいと要望があった。その他の日常的な相談については、適切に応じた。

6. その他

(職員教育の推進)

全職員個々の段階に応じた利用者支援の基礎から専門分野に至る研修等へ参加をすすめ、全職員の資質の向上に努めた。

(作業環境への整備)

安全・衛生的で働きやすい職場環境にするため、グループごとの作業場及び休憩所の環境美化を促進した。

(安全管理)

救命講習や防災訓練等の定期的な実施に加え、作業で取扱う機械等の安全教育を利用者及び職員に行ない、安全確保に努めた。

今年度は利用者の労働災害が発生したため、作業での安全管理の徹底を図った。

(作業手順の確認等)

(ヒヤリ・ハット及び事故)

2件

(労働災害)

平成28年度は労働災害申請2件。

(足がすべり尻もちをつき尾てい骨の骨折)

(軽トラの荷台からコンパネが落下し足の親指の骨折)

(行事実施状況)

月	内容	場所
6月	A型事業所交流会 (平成いもの会)	岡山
7月	慰労会	町内
10月	日帰り研修旅行	神戸
1月	初詣	岡山

(苦情解決)

福祉サービスに対する苦情として受け付けたものはなかった。